

宝塚大橋の照明燈で採集した蛾（続報その9）

新 家 勝

1978年に始めた宝塚大橋での蛾の採集については逐次11回にわたって報告させていただいたが、10年を過ぎたので目撃例や付近での観察結果を参考にまとめてみたい。

薄暮の点燈時から宵の内の滅燈時までの間、宝塚大橋の照明燈には、いろいろな昆虫、殊に多くの蛾が飛来する。そして、路上や欄干上に着地するもの、植込みの中に姿を隠すもの、川床へ落下するもの、照明燈の周りを旋回したり、次々と照明燈を巡ったりした後、飛び去るものなど様々である。しかし、21時の滅燈に伴い、それまでそこここにいたものが急に少なくなる。多分、他の明かりを求めて飛び去るのに違いない。こうして明るくなった翌朝、蛾の姿はほとんど見られない。

ところで、ここに飛来する蛾を多い少ないから大別すると、(1)よく見られるもの、(2)見られなくなったもの、(3)見られるようになったもの、(4)散発的に見られるもの、(5)一度又は一時的に見られたものになる。一方、発生状況から大別すると、(a)定常的に、かなり多数発生している、(b)定常的又は継続的に一時的発生していたものが発生しなくなった、(c)発生するようになった、(d)散発的又は少しずつ発生している、(e)遠方で発生したものが、たまたま飛来した、そして、一部のものが一時的に発生したといったことが推定できる。こうした多い少ないの各状態と各発生状況は、ずれや複合があるとしても大体において対応しているのではないかと思う。採集漏れや観察の目こぼしは多く、発生状況を調べたわけではないので、どの種がどの状態に該当するかといったことを明らかにすることはできないが、傾向としては当然とも違わずではないだろうか。

それでは、ここに集まる蛾は、どこから来るのだろうか。周囲環境について多少触れてみたい。この辺りを地理的環境から見ると、六甲山系の東端と長尾山系とが武庫川を挟んで対峙した位置にある。植物相からみると、これらの山地は、大体貧相なアカマツ林でコナラが多いが、長尾山系の山裾にはアベマキやアラカシの古木が密生するところが多く、ところによってはかなり広がりを見せている。六甲山系ではヤシブシ類が多く、ウラジログシの群生するところもあるが、カシ類の古木はあまり見られない。しかながら、いずれにもいろいろな植物があり、多くの昆虫を発生させているものと思われる。橋付近の河川敷内には、アキニレやヤナギ類の小木はあるが、木らしい木はなく、ヨシ、ススキ、ヨモギ、セイタカアワダチソウなどが少し生えている。付近の民家や宝塚ファミリーランドには、クロマツ、クスノキ、センダン、アラカシなどが多い。橋上の植込みにはサザンカ、シャリンバイ、コクチナシ、ボックスウッド（洋種ツゲ）が栽植されている。

こうした環境のもとに多くの蛾が発生しているのだが、平地での観察場所としている安倉北4丁目、美座2丁目、光明町のいずれか又はいずれもで普通に見られるものは、宝塚大橋でも普通に見られる。また、山地での燈火採集で見られるものも結構多く見られる。これらのことから、付近の平地のものはもちろん、見通し位置にある六甲山系や長尾山系の眼下に宝塚大橋があり、なるほどと思わせる。

(1) コウモリガ科

キマダラコウモリガ1頭を一度採集したのみ。

(2) ボクトウガ科

ゴマフボクトウガ1頭一度採集したのみ。

(3) ハマキガ科

マツアトハマキ、チャハマキ、リンゴキマダラハマキ各1頭を一度採集したのみであるが、チャハマキは平地に普通。

(4) ミノガ科

オオミノガは、毎年多数見られるが、チャミノガとクロツヤミノガは各1頭を一度採集したのみ。

(5) マダラガ科

ウスバツバメ1頭を一度採集したのみ。9月末から10月の初め、市街地で昼間よく飛んでいるが、昼飛性であるため電燈にはほとんどやって来ない。

(6) イラガ科

イラガ、ヒメクロイラガ、テングイラガ、ヒロヘリアオイラガは、それぞれ二三度、採集又は目撃しているが、クロシタアオイラガ、アオイラガは、各1頭を一度採集したのみ。ヒメクロイラガ、アオイラガ、ヒロヘリアオイラガは、平地に普通。

(7) メイガ科

最も多いのは、大きく、よく目立つツゲノメイガあり、平地にも普通である。ここでは植込みのボックスウッドで発生するようであり、付近でも同様だと思ふ。次にマエアカスカシノメイガ、マメノメイガが多く、これらも平地に普通である。また、シロオビノメイガ、モモノメイガ、モンキクロノメイガ、ナカムラサキフトメイガが普通に見られる。著名なニカメイガ、スジツガ、ミツテンノメイガ、大きく一際きれいなオオキノメイガ、キバラノメイガ、クロモンソフトメイガ、アカシマメイガ、ツマグロシマメイガ、カパイロトガリノメイガ、ハチノスツツリガ、ウスアカマダラシマメイガなどが散発的に見られる。これらのうち、ミッテンノメイガ、シロオビノメイガ、モモノメイガ、マメノメイガ、モンキクロノメイガ、カパイロトガリノメイガは平地でも見られる。

(8) カギバ科

ウコンカギバ、アカウラカギバ、スカシカギバの3種のみ。ウコンカギバは見られなくなり、他

の2種は各1頭採集したのみ。

(9) トガリバ科

アヤトガリバは最近、見られるようになった。ホソトガリバ、ホソボソトガリバは散発的に見られる。ムラサキトガリバは1頭を一度採集したのみ。

(10) シャクガ科

最も多いのはナカウスエダシャクで、5月から11月まで、矮小型や、黒化型もよく混じり、平地にも普通である。マエキオエダシャクは多く、エグリツマエダシャク、ウスキツバメエダシャクは普通に見られる。ウスミドリナミシャク、フトジマナミシャク、ユウマダラエダシャク、ヨモギエダシャク、ヒロバウスアオエダシャクは、ここでは余り見られないが、平地に普通であり、ユウマダラエダシャクはマサキヤマユミで多発する。ヒロバウスアオエダシャクは最近よく見られるようになった。オオシロアヤシャク、コシロオビアオシャク、クロスジオオシロヒメシャク、キエダシャクなどきれいなもの、キオビゴマダラエダシャク、オオゴマダラエダシャクなど大型のものは一度採集したのみ。チャノウンモンエダシャクは、当初普通だったが、最近は見られない。

(11) カレハガ科

マツカレハは普通。ホシカレハは散発的に見られるが、カレハガ、オビカレハ、ツガカレハは見られなくなった。

(12) テンサンガ科

シンジュサンは平地で普通に発生しており、散発的に見られる。ヤママユ、クスサン、ウスタビガは見られなくなってしまった。殊にウスタビガは1978年のみ見られた。オオミズアオ、オナガミズアオは宝松圏辺りの山地でよく見られるもので、ここでも散発的に見られる。

(13) スズメガ科

セスジスズメ・コスズメは多く、エビガラスズメ、シモフリスズメは普通であり、いずれも平地に普通である。クロスズメ、ホソバスズメ、ブドウスズメ、ベニスズメは散発的に見られる。メンガタスズメは採集、目撃各1例ずつがある。サザナミスズメは見られなくなってしまった。モモスズメ、ウンモンズズメは意外に少ない。日中活動するホシホウジャク、クロホウジャクは一度採集したのみだが、ホシホウジャクは平地に多く、クロホウジャクは武庫川周辺では見たことがない。

(14) シャチホコガ科

ナカグロモクメは多い。ムクツマキシヤチホコ、オオトビモンシャチホコ、セグロシャチホコは当初、普通だったのに見られなくなったが、オオトビモンシャチホコ、セグロシャチホコは平地でよく見られる。モンクロシャチホコは余り見られないが、平地には普通である。ギンモンズズメモドキ、ヒメシャチホコ、オオモクメシャチホコ、ホソバシャチホコ、スズキシヤチホコ、クワゴモ

ドキシヤチホコ、ツマアカシヤチホコは各1頭を一度採集したのみ。ギンモンズズメドキは北部山地の夜間採集で取れるそうである。

05 ドクガ科

ブチヒゲヤナギドクガは多く、マイマイガ、チャドクガが普通に見られる。チャドクガは植え込みのサザンカで発生することがある。6月初旬のキアシドクガの群飛は、見られなくなってしまった。よく似たエルモンドクガは1頭を一度採集したのみ。カシワマイマイは散発的に見られるが、ウチジロマイマイは見られなくなった。1頭を一度採集したのみのナチキシドクガ、マガリキドクガは偶産ではないかと思われる。

06 ヒトリガ科

コケガ亜科のうち、ヨツボシホソバは多く、マエキクロホソバ、クビワウスグロホソバは散発的に見られたが、漸次見られなくなっている。ゴマフオオホソバ、キベリネズミホソバ、ムジホソバ、アカスジシロコケガは1頭を一度採集したのみで平地では見られない。ヒトリガ亜科では、カクモンヒトリが多かったが、少なくなって来た。セスジヒトリ、オビヒトリ、キバラゴマダラヒトリは普通に見られ、シロヒトリ、アメリカシロヒトリは散発的に見られる。セスジヒトリ、アメリカシロヒトリ、カクモンヒトリは平地でも時々、見られる。アカヒトリ、クワゴマダラヒトリは見られなくなった。サラサヒトリは1頭を一度採集したのみであるが、平地での採集例がある。

07 ヤガ科

キバラケンモンは多く、リンゴケンモン、ナシケンモンは普通、オオケンモン、サクラケンモンは散発的に見られる。クロクモヤガ、オオバコヤガは多く、カバスジャガ、コウスチャヤガ、アカフヤガ、ウスイロアカフヤガ、シロモンヤガは普通に見られる。クロクモヤガは平地でも普通に見られる。ニセタマナヤガは増加が見られない。タバコガ、オオタバコガ、ツメクサガは各1頭を一度採集したのみ。ヨトウガ、アワヨトウ、クサシロキヨトウは多く、シロシタヨトウは普通、クロシタキヨトウ、アトジロキヨトウは散発的に見られ、ヨトウガは平地でも普通に見られる。シロスジアオヨトウ、ハスモンヨトウ、シロテンウスグロヨトウは多く、シマカラスヨトウ、ノコメセダカヨトウ、シマキリガ、チャオビヨトウ、ムラサキツマキリヨトウは普通に見られる。これらのうち、シロスジアオヨトウ、シロテンウスグロヨトウは平地でよく見られる。フサヤガは多く、キノカワガ、アカスジアオリンガは普通、ヤマトホソヤガは少ないながらも散発的に見られる。キンモンシロウワバ、エゾギクキンウワバ、ウリキンウワバは普通、キクキンウワバは散発的に見られる。ホソオビアシプトクチバ、アカエグリバは普通、オスグロトモエ、ウスズマクチバは散発的に見られるが、キシタバ、ムクゲコノハ、アケビコノハなどは各1頭を一度採集したのみである。ソトウスグロアツバ、オオアカマエアツバは普通である。ヤガ科中、ホソバミドリヨトウ、ヨシヨトウ、

オウトウウスグロクチバは偶産ではないかと思う。未同定であったものの一つが、ウスクロモクメヨトウ (1982.6.1 武庫川) であることがわかった。

これまでの報告は、主として初回採集の記録だけであり、多い少ない、動静などにあまり触れていなかった。ところが、こうしたことを全種について書くと膨大になるので、かいつまんで報告した。殊にメイガ科、ジャクガ科、ヤガ科など多種類のものは主なものだけに触れた。10年間に採集した種類数は18科332種であり、科別に示すと次の通りである。

コウモリガ科	1種	メイガ科	43種	スズメガ科	16種
ボクトウガ科	1種	カギバ科	3種	シャチホコガ科	12種
ハマキガ科	3種	トガリバ科	4種	ドクガ科	13種
ミノガ科	3種	ジャクガ科	51種	ヒトリガ科	20種
マダラガ科	1種	カレハガ科	5種	ヤガ科	143種
イラガ科	6種	テンサンガ科	6種	トラガ科	1種

なお、現在も採集を続けており、1988年にも11種を新たに採集した。採集品は、まだまだ増えるので、追って報告させていただく。最後になりましたが、寄稿をお奨めいただきました高橋寿郎氏、同定に際してご指導いただきました東正雄先生、木下総一郎先生に改めて厚くお礼を申し上げます。

参考文献

- 講談社 日本産蛾類大図鑑 I、II
- 北隆館 原色昆虫大図鑑 I
- 保育社 原色蛾類図鑑 上、下
- 宝塚市 宝塚市史 第七巻
- 神戸新聞出版センター 六甲の自然